

インプレッションDATA

二木ゴルフ博多斐野店に設置している「サイエンスアイ」で、工藤健司店長が試打。
 (2008年モデルの結果は昨年の同時期に掲載した結果データで、同一条件で試打検証している。)



		ヘッドスピード	ボールスピード	打ち出し角	バックスピン	サイドスピン	飛距離	飛距離差
A	2008モデル	47.4	64.1	12.6	2120	-100	249	+17
	2009モデル	46.6	65.8	14.7	1940	-480	266	
B	2008モデル	46.9	63.8	12.5	2430	-120	248	+22
	2009モデル	45.5	65.2	14.5	1940	-150	270	
C	2008モデル	47.2	64.4	14.2	1990	-170	247	+22
	2009モデル	45.8	66.0	19.0	2040	- 60	269	
D	2008モデル	46.6	64.6	12.8	2200	- 50	253	+13
	2009モデル	45.4	65.8	15.8	2120	- 70	266	
E	2008モデル	46.9	63.8	13.9	2180	-190	251	+16
	2009モデル	45.9	66.8	15.5	1810	-360	267	

2008年モデルのテスト時、前作(2007年モデル)よりも、優れた数値をたたき出した。それにも増して2009年モデルは、さらに理想的な数値と言えるだろう。写真でも判るだろう注目したいのはフェースに描かれた反発エリアである。円で描かれた反発エリアが2008年モデルと比べると明らかに広がっている。これは2009年モデルの反発エリアが拡大していることを示している。またセンターヒットしているDの数値は、前作と比べ飛距離は13ヤードのアップにとどまっているが、ABCDEに関しては16~22ヤードという驚異的な飛距離アップとなった。次に注目したいのがボールスピード(ボール初速)がアップしていること。このことからセンターヒットしなくても、力強い球が打てていることが判る。まさしく、センター(真芯)でない部分の反発エリアが広がっているということだろう。

2007年モデル



2006年モデル(初代)で、縦に二分されたフェース裏が始まった。それを進化させたのがX字型。これより、縦横上下の反発エリアを拡大することができるようになった。

2008年モデル



2007年モデルのX字型形状から、さらに角度を広げることで、反発エリアを広げることに成功したのが、前作モデル、インプレッションシリーズ=反発エリア(大)のイメージが確立した。

2009年モデル



さらに、進化したのが2009年モデル。なんとX字型形状の角度を広げ、新たに左右2つのX字型形状を追加、フェース面に占める反発エリア面積は、驚異的となった。